

2018 年度事業報告
2018 年 4 月 1 日より 2019 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人フェア・プラス

2018 年度は重点項目として、以下の 3 項目の取り組みを行った。

- ① フィリピン・マリナオ村への総合的支援の充実
- ② 京都一加との安定的取引の継続拡大
- ③ コンサルタント・コーディネーション事業の取り組み

取り組みの詳細は以下の通り。

1. 啓発活動事業

- a. 写真家（金サジ氏）とデザイナー（井澤葉子氏）のマリナオ村訪問および帰国報告会、写真展の開催
8 月、二人がマリナオ村にホームステイし、村の人たちと交流を図る中で、金サジ氏がありのままの村の姿を撮影。井澤葉子氏は、マクラメ編みの技術を習得するとともに、帯の品質向上、新商品開発に向けての意見交換を生産者と行った。
10 月 28 日帰国報告会を開催し、滞在中に撮影した写真をスライドショーで写し、村の魅力について紹介。（at サロン ABCafe）
11 月、café ジョイントほっとにて、マリナオ村で撮影した写真をカフェに来る方たちに見て関心を持って頂けるよう写真展を開催。
- b. 日本国内の伝統の手仕事の調査
アバカ・マクラメ編みと日本の農村の伝統の手仕事との共通点が多いことに着目し、両者の比較検討を行うことを目指し、8 月に京丹後藤織り伝承館を訪問、9 月に奥会津編み組細工伝統工芸士を訪問し、現地調査を行った。
- c. コンサルタント・コーディネーション業務
AFS 日本協会より、同法人の事業「架け橋プロジェクト」に関する Monthly Report 「架け橋通信」の製作および同プロジェクトのロゴ制作を受託。
架け橋プロジェクト：アジア 21 か国の高校生が日本の高校へ 6～8 か月留学するプログラム。2018 年度 100 名、2019 年度～2022 年度各 200 名を受け入れ。（外務省、文科省、経産省共同事業）
- d. ツキイチカフェの継続
〔2018 年度開催ツキイチカフェ〕
5 月 20 日 井澤 葉子（ジュエリー・アーティスト）
「物づくり：言葉を超えて繋がる」

6 月 9 日 山田 和生（㈱マイチケット 代表取締役会長）
「行こう！ “もうひとつの旅” へ 出会いのチャンスだ！」

7 月 8 日 曾我 千代子（NPO 法人加茂女〔かもめ〕理事長）
「竹を採算の取れる事業にして日本中の竹林を美しくしよう！」

- 9月1日 栗田 佳典（認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス アウェアネス・レイジングチーム マネージャー）
「平和への一歩～ウガンダの元子ども兵から教わったこと～」
- 12月2日 これまでのツキイチカフェのゲスト
「ツキイチカフェが結ぶ人の輪、活動の輪」
- 1月12日 河西 実（NPO 法人フェア・プラス 事務局長）
「国境を越えた伝統技法とデザインの出会いが生み出す新たなエシカル（倫理的な）商品」
- 2月17日 南スヒョン（京都コリアン生活センターエルファ 事務局長）
「共に生きる社会をめざして」～ケアから考える新しい社会～
- 3月23日 千代 その子（一般社団法人ダンストーク代表）
「ダンスと地域のあたらしい関係をさがして」

2. 作業所製品販売事業

- a. 西陣工房製「糸のじゅえりい」の販売：
京都ハンディクラフトセンター、和望との取引を継続。
- b. 第三かめおか作業所製洋菓子の販売：
蜜香屋が11月～2月の3か月間梅田 EST にオープンしたカフェ、および蜜香屋の既存の2店舗（大阪中津）向けにお芋のシフォンケーキを継続的に提供した。

3. フェアトレード商品販売事業

- a. マリナオ村生産者団体への総合的支援の充実
2018年度は、以下の項目を中心に支援活動を実施した。
- マクラメ編みトレーニングの実施。マリナオ村以外からも学びたいという希望者が出てきており、今後もトレーニングを継続したいとの要望あり。
 - 共同作業所設備の充実（製品の保管室、窓の取付け、壁塗り・隙間埋め、トイレ設置等：製品保管室は日本からの訪問者の宿泊場所を兼ねる）
 - アバカの植林に適した新たな土地（オズマン地区）の調査および植林の実施（これまで生産者が暮らすサンラモン集落の周辺の森で植林を行ってきたが、村の奥地で手つかずの森が残るオズマン地区で2018年度以降は植林を実施することとした。）
- b. 京都一加との共同開発商品の取引の継続
- 9月までに京都一加での販売需要を満足する十分な数量を供給。2019年度販売用商品については、京都一加からの要望で2018年12月よりマリナオ村での生産を再開した。
- c. Cradle Cradle ブランド（バッグ、アクセサリ）および一般アバカ商品の販売
- 多くの一般アバカ商品を販売している民族学博物館が、6月の大阪北部地震で大きな被害を受ける。そのため、博物館が9月まで閉館となり、今年度のアバカの販売は中止となった。

- 12月 one world festival for youth、3月エシカルラボに出店（学生ボランティアによる）
京都府が取り組むエシカル推進事業委員会に、フェア・プラスは唯一のフェアトレード団体として参加。
7月に徳島県で開催された「エシカル・ひとまちサミット」で、京都府を代表してフェア・プラスの活動を発表。フェア・プラスの活動が消費者庁のHPでもエシカルの先駆的取り組みとして紹介される。

以上